

RYOBI

エンジン高圧洗浄機

EJP-130GQ

取扱説明書



このたびは、リョービ エンジン高圧洗浄機をお買い上げいただきありがとうございます。
ご使用前に必ずこの取扱説明書を最後までよくお読みいただき、使用上の注意事項、本機の
能力、使用方法など十分ご理解のうえで、正しく安全にご使用くださるようお願いいたします。
また、この取扱説明書は大切にお手元に保管してください。

はじめに

このたびはエンジン高圧洗浄機をお買い上げいただきましてありがとうございます。

本機を効率良く、安全にお使いいただくため、ご使用前に本書をよくお読みいただき、操作方法、点検やお手入れの方法などについて十分ご理解いただいた上で、正しくお取り扱いいただきますよう、お願いいたします。

尚、弊社では「危険」、「警告」、「注意」および「参考」の各事項について次のような表示を使用しており、それぞれの定義は以下の通りです。



危険：人身事故防止用

遵守しないと人身事故が発生し、場合によっては死亡・重大な後遺症の可能性がある。



警告：人身事故防止用

遵守しないと人身事故が発生し、創傷・火傷の可能性がある。

注意：製品自体の損傷防止用

遵守しないと製品自体に損傷を与える可能性がある。

参考：留意事項

操作・お手入れにおいて知っておくべき得な製品の性能、誤りやすいミスに関する事項。

もくじ

	ページ
1. 安全にお使いいただくために	1
2. ご使用前の	3
3. 各部の名称	5
4. 主なる仕様	6
5. 運転前の準備	7
6. 運転の開始	12
7. 運転の終了と保管	16
8. 日常の点検・お手入れ	18
9. 寒冷地での使用・不凍処理について	23
10. 故障かなと思ったら	24
保証規定	28
保証書	29

安全にお使いいただくために

機械の性能を十分に発揮させるために、また安全にご使用いただくために、ご使用前に下記の事項をよくお読みいただき、十分にご理解と遵守の上でご使用ください。

危険：一酸化炭素中毒や火災事故などを防ぐために

- 換気が悪い場所では使用しないでください。エンジンの排気には有毒な一酸化炭素が含まれており、換気が不十分な場合は死に至ることもあります。
- 燃料補給は必ずエンジンを停止し、エンジンを十分冷やしてから行ってください。燃料は引火しやすいので、運転中の補給は絶対行わないでください。
- 給油時は火気厳禁です。
- 燃料を入れすぎると燃料が燃料タンクキャップからにじみ出ることがあり、火災の恐れがあります。入れ過ぎないようにしてください。
- 燃料タンクキャップは確実に閉めてください。もし燃料がこぼれた時は乾いた布で完全に拭き取り、よく乾かしてからエンジンを始動してください。
- 本機運搬時には燃料タンク、キャブレター内の燃料を抜き取り、本機が転倒したり動いたりしないようにしっかり固定してください。
- 本機の運転中に周囲を囲ったり、箱をかぶせたりしないでください。エンジンが過熱し本機が損傷するばかりでなく、火災のおそれがあります。
- 燃えやすいもの（わらくず、紙くずなど）や危険物（油脂類、シンナー、火薬など）の近くでは使用しないでください。
- 雨天や雷鳴時は屋外で使用しないでください。
- 風通しの良い水平な場所でご使用ください。

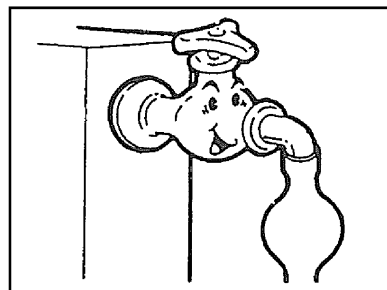
警告：火傷やけがなどを防ぐために

- 高圧ホースを取り外す時はエンジンを停止させ、ガンのトリガ（引き金）を一旦握りホース内部の圧力を抜いてください。
- 高圧ホースに破損、水漏れ、変形や亀裂など異常がある場合は本機の使用を中止し、ホースを新品に交換してください。
- 点検やお手入れを行う場合は、必ずエンジンが冷えた状態で行ってください。
- 分解や改造はしないでください。故障の原因となるばかりか危険です。
分解や改造により発生した事故および故障の責任は負いかねますのでご了承ください。
- ガンのトリガ（引き金）をロープや針金等で固定して使用すると非常に危険です。絶対に行わないでください。
- 本機は水道水でお使いください。ガソリンやオイル、有機溶剤などの可燃性液体や有害液体は使用しないでください。爆発、発火、発煙などの事故や故障の原因になります。

- 本機を使用する際は作業が容易なきちんとした服装で行ってください。また作業時は保護メガネを着用してください。
- 運転中および停止直後はマフラーやマフラーカバー、エンジン本体およびその周辺が熱くなっていますので、手や肌が触れないようにしてください。
- 運転中は点火プラグ、キャップ、プラグコードに高圧な電気が流れています。感電の恐れがあるので触らないでください。
- エンジンオイルの補給後はオイルゲージを確実に閉めてください。閉めが不十分だと運転中に熱いオイルが飛散する恐れがあります。
- ノズル、ガン、ランスおよび高圧ホースなどの接続は緩んだり、外れたりすることのないよう確実に接続してください。
- 噴射方向に十分注意してください。人、動物、電気機器、設備などに噴射しないでください。また、車のタイヤや下回りを洗浄する際は、ノズル先端から30cm以上離してください。接近しすぎると車の部品を損傷させ重大事故の原因となることがあります。
- 対象物に損傷が生じる恐れのある場合は、目立たない所で試してから使用する、ノズルからの距離を置いて様子を見ながら洗浄するなど慎重に作業してください。
- リコイルロープを引くときは、引っ張る方向に人や障害物がないことを確認してから行ってください。けがをするおそれがあります。
- 高圧吐出状態で急にエンジンを停止すると、マフラー内で未燃燃料に着火し、爆発音が出たり炎が噴き出す場合があります危険です。2～3分ほど高圧水の吐出を止めた状態でエンジンを回し、そのうちエンジンを停止させてください。

注意：機械の故障を防ぐために

- 水道水をご使用ください。雨水、井戸水、工業用水および海水などは使用できません。
- 給湯設備から給水する場合は、水温が40℃以下であることをご確認の上ご使用ください。
- 水道は毎分6L以上の供給水量が必要です。適した水源をご使用ください。
- ポンプの水無し運転（空運転）をしないでください。
- 高圧ホースは伸ばした状態で使用してください。鋭角に曲げたり、踏んだりすると破裂する場合があります。
- 洗剤は水溶性のものをご使用ください。強酸、強アルカリ、溶剤系のものは使用しないでください。洗剤を使用される際は中性洗剤を使用し、必ず洗剤の用法に従ってご使用ください。
- 長期保管前にはタンク内やキャブレター内の燃料を抜き取り、火気や湿気のないところで保管してください。また、抜いた燃料は引火性があり火災や爆発の恐れがあるので、「消防法に適合した」金属製の燃料タンクに入れて保管してください。
- 保管前にポンプ、ガン、高圧ホース内に残っている水を排出してください。
- 本機を雨にさらさないでください。保管時は本機にカバー等を掛け、雨やほこりが掛からないよう室内で保管してください。
- エンジンオイルは使用の前に適量で清浄であることを確認してください。使用に伴いエンジンオイルは消費され減ります。劣化したオイルは潤滑性能が落ち、エンジン故障の原因となります。
- 5分以上のアイドリング運転は行わないでください。ポンプが過熱して故障の原因となります。



2

ご使用前に

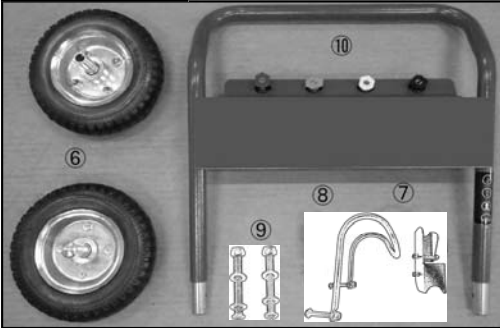
2-A 付属品の確認

本機のご使用前に付属品が正しく揃っているかを確認してください。万が一不足の場合はお買い求めの販売店にご連絡ください。

アクセサリ

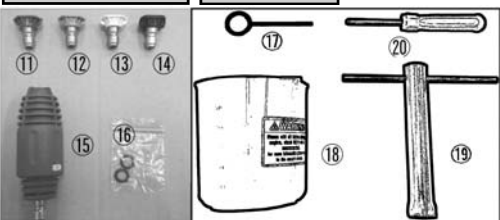


組付け部品



ノズル他

工具他

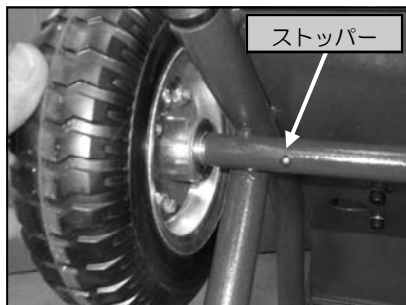
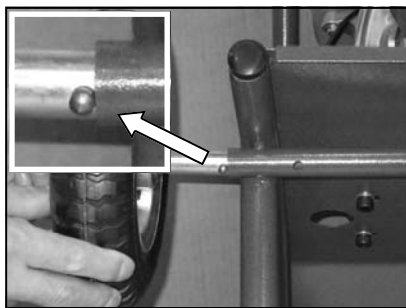


グループ	品名	図番	
アクセサリ	ランス	①	
	ガン	②	
	高圧ホース10m	③	
	水道直結用吸水ホース3m	④	
	自吸用吸水ホース3m	⑤	
組付け部品	ホイール×2	⑥	
	ガンフック (ネジ、ナット×2付き)	⑦	
	ホースフック (ネジ、ナット×2付き)	⑧	
	ネジ、ナット×2 (ハンドル用)	⑨	
	ハンドル	⑩	
ノズル他	0度ノズル	赤	⑪
	15度ノズル	黄	⑫
	40度ノズル	白	⑬
	洗剤吐出ノズル	黒	⑭
	ターボノズル	赤	⑮
	スペアOリング (高圧ホース&ガン用)		⑯
工具他	ノズルクリーナピン		⑰
	カップ		⑱
	プラグ交換レンチセット		⑲
	ドライバー		⑳

2-B 組み立て

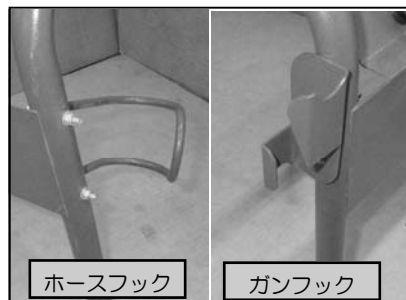
以下の手順で本機を組み立ててください。

I, ホイールの取り付け

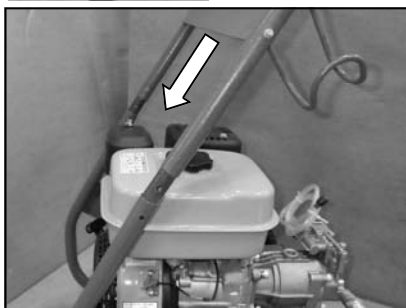


1. フレームのホイール取り付け用パイプにホイールを軽く差し込みます。
2. ホイールのパイプに付いているストッパーがフレーム側のパイプの穴に合うよう、位置を合わせながらホイールを押し込みます。
3. ホイールを外す方向に引き、ストッパーが穴に完全に入ってホイールが外れないことを確認してください。
4. 上記手順で左右のホイールを取り付けてください。

II, ハンドルの取り付け



1. 付属のネジとナットでハンドルにガンフック、ホースフックを取り付けます。
ガンフックはハンドル右（機械後方から見て）に、ホースフックはハンドル左に取り付けます。



2. ハンドルの向きに注意して、フレーム側のパイプに差し込みます。

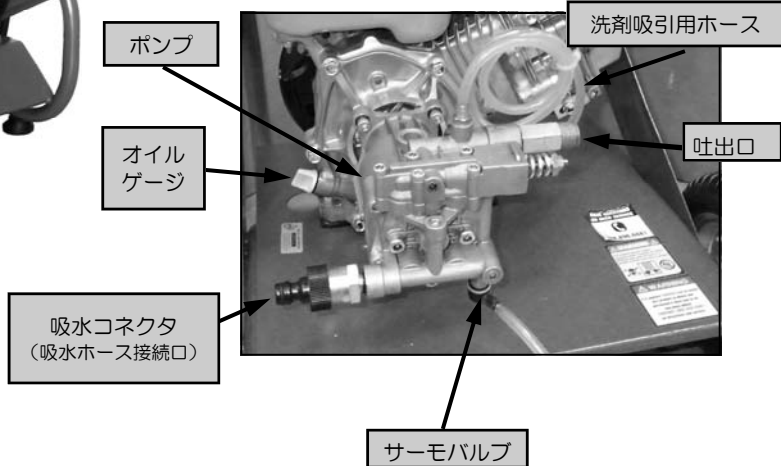
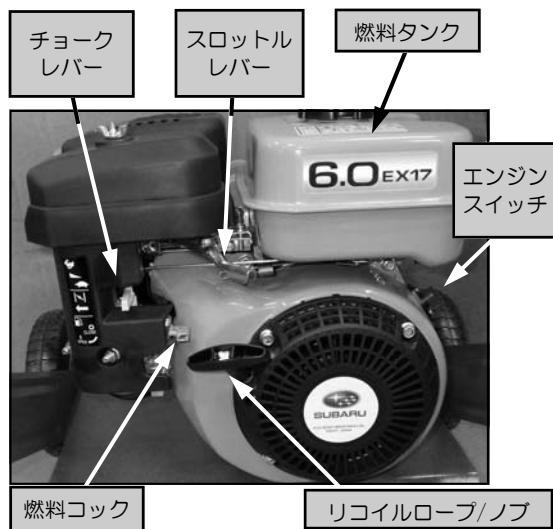
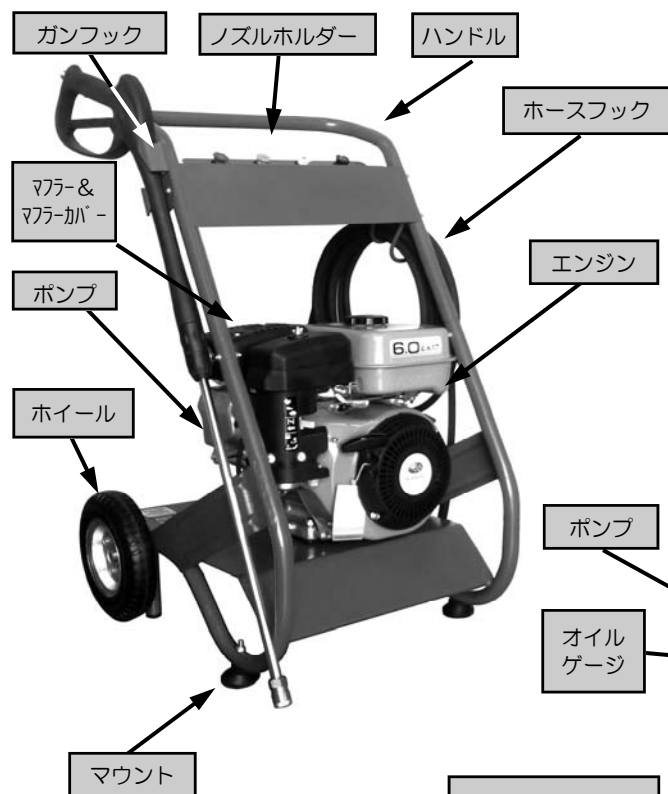


3. ハンドルとパイプの穴位置を合わせ、付属のネジとナットで固定します。

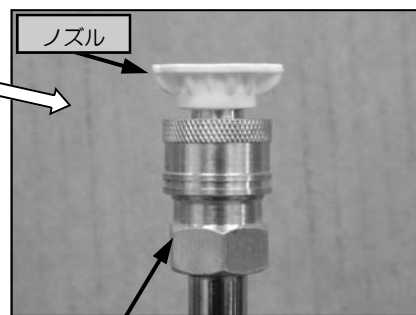
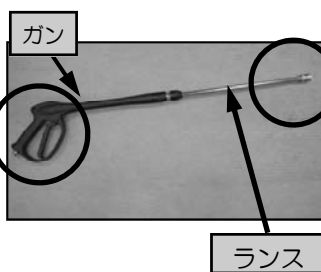
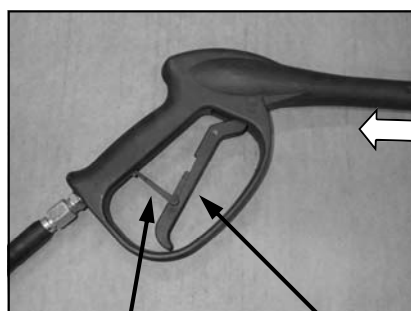
3

各部の名称

3-A 本体



3-B アタッチメント



4

主なる仕様

4-A 主なる仕様

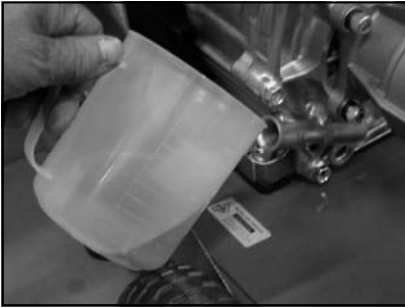
		EJP-130GQ			
最	大	吐 出 圧 力	13MPa		
最	大	吐 出 水 量	6L/min		
許	容	水 温	40℃以下		
給	水	方 式	水道直結または容器溜め水からの自吸		
吸	い	上 げ 高 さ	0.5m		
ポ	ン	プ	方 式	3連アクシャル型	
				オイル封入密閉式	
エ	ン	ジ	ン	型 式	SUBARU EX17
				出 力	2.9kW (4.0PS)
				排 気 量	169cc
				始 動 方 式	リコイルスタート
				点 火 プ ラ グ	E6RC(TORCH)またはBR-HS (NGK)
				オ イ ル 量	0.6L
				使 用 燃 料	レギュラーガソリン
寸	法	全 長	51cm		
		全 幅	56cm		
		全 高	80cm		
質		量	31Kg		

5

運転前の準備

5-A エンジンオイルの注入

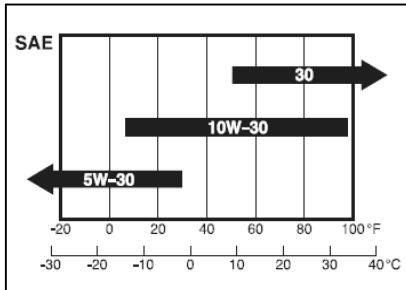
注意：ご購入時にはエンジンオイルが入っておりませんのでご使用になる前に必ず注入してください。
オイルが無い状態で使用するとエンジンが焼き付き故障します。



1. 本機を水平な場所に置きます。
2. エンジンのオイルゲージを取り外し、付属のカップにオイルを入れ、給油口からオイルを注入してください。

推奨オイル：API分類SE級以上のガソリンエンジンオイル
左表を参照し、環境温度に合ったオイルを使用してください。

オイル量：約0.6L

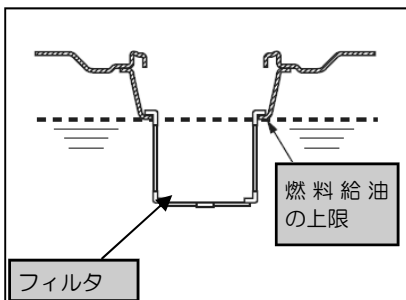


3. 次頁「5-Cエンジンオイルの点検と補給」を参照し、エンジンオイルを適量にしてください。

5-B 給油



1. 燃料タンクのキャップを開け、レギュラーガソリンを入れてください。
タンク容量：3.2L
2. 燃料は給油口の口元まで入れず、液面がフィルタの縁（給油の上限）より下になるようにしてください。入れ過ぎると燃料が燃料タンクキャップからにじみ出ることがあります。

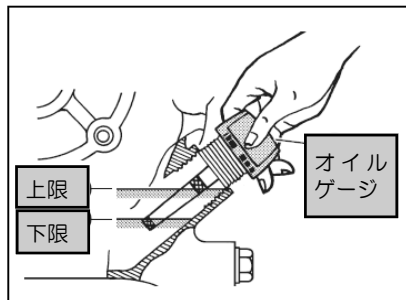


危険：給油時は火気厳禁！

燃料を入れすぎないようにしてください。万が一こぼした場合は乾いた布で完全に拭き取ってください。

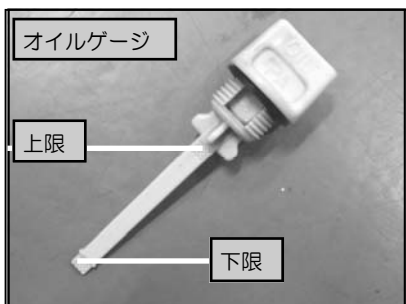
注意：ガソリン以外の燃料はエンジン故障の原因となるため使用しないでください。

5-C エンジンオイルの点検と補給



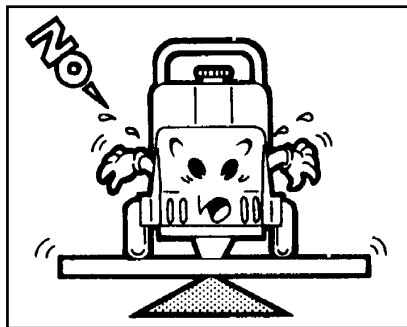
運転前に必ずオイル量を確認し、不足の場合はガソリンエンジンオイルを補給してください。

1. オイルゲージを反時計方向に回しエンジンから外します。
2. 乾いた布でオイルゲージのオイルを拭き取り、給油口に差し込み（ねじ込まないで）、再度引き抜きオイルゲージでオイル量を確認します。
3. 上限と下限の間に油面があれば適正量です。不足している場合はオイルを補給して適正量にしてください。



警告：点検後はオイルゲージを確実に締め付けてください。締め付けが不十分な場合、ゲージが外れて熱いオイルが飛散する恐れがあります。

5-D 設置



1. 本機を洗浄場所に移動します。
2. 水平な場所で、洗浄作業中に飛散した水などが本機に掛からない場所を選んでください。

注意：本機が傾斜した状態で使用すると、エンジンやポンプの潤滑不良を起こし故障の原因となります。

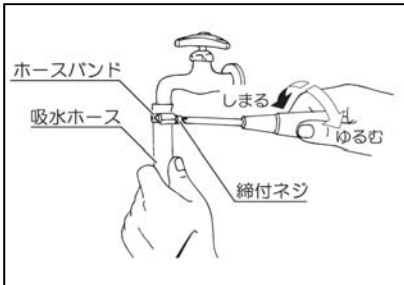
注意：平滑な床の場合、エンジンの振動で本機が移動することがあります。その場合はひもなどで本機のフレームを固定してください。

注意：本機は風通しの良い場所でご使用ください。

5-E 給水

本機は水道直結でも溜め水容器からの吸い上げ（以後自吸と記載）でも、どちらでも使用できます。但し自吸の場合は若干、吐出圧力が低下します。

【水道直結の場合】



1. 水道直結用吸水ホースを蛇口に接続し、付属のドライバー（+）でホースバンドを締め込み、ホースを確実に固定します。

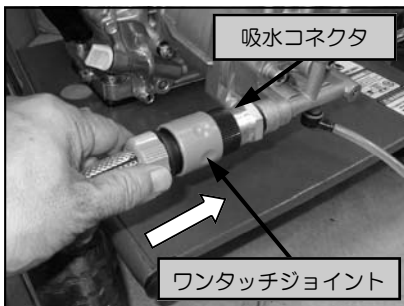
注意：供給水量が6L/m以上ある上水道を使用してください。水道の供給水量が少ないと吐出圧力が十分に上がらないばかりか、故障の原因になります。

2. 吸水ホースのワンタッチジョイントを本体の吸水コネクタに「カチッ」と音がするまでしっかり差し込みます。

注意：接続があまいと水漏れの原因となります。

3. 蛇口を開け本体吐出口から水が出ることを確認します。これは自吸の場合の呼び水です。

4. 一旦蛇口を閉め、給水を止めます。



【溜め水容器からの自吸】

初めての使用または長期間使用していなかった場合は、ポンプ内部が乾燥しており、自吸のために呼び水が必要です。水道直結で呼び水をしてください。



1. 自吸用吸水ホースのサクシヨンストレーナを溜め水容器に入れます。

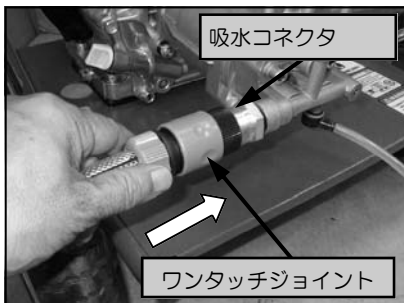
2. 自吸用吸水ホースのワンタッチジョイントを本体の吸水コネクタに「カチッ」と音がするまでしっかり差し込みます。

注意：接続が甘いとエアを吸込み吸水不足となり、圧力が上がらない原因となります。

注意：溜め水の容器は深さは50cm以下のもので、本機と同じレベルまたは本機より高い位置に設置してください。それ以上の深さの容器や、本機より低い位置からの水の吸い上げはできません。

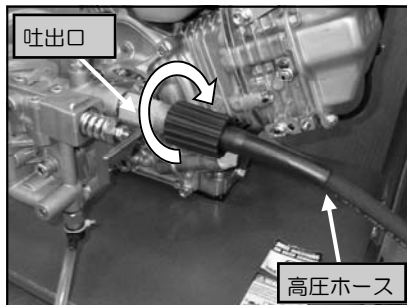
3. エンジンを始動すると吐出口から水が出始め、30秒ほどでエアが抜け、水の出方が一定になります。これでエア抜きが完了します。エンジンの始動方法は後述「6-Aエンジンの始動」（10頁）を参照してください。

注意：エア抜きができない、もしくは時間が掛かる場合はカプラの接続とサクシヨンストレーナにごみ詰まりが無いかを確認してください。



5-F 高圧ホース、ガン、ランスの接続

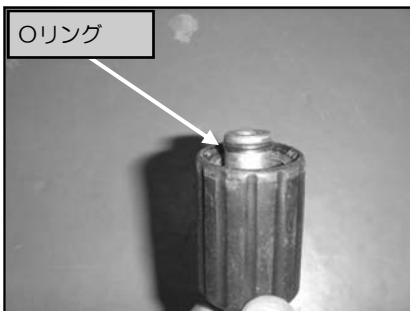
⚠ 危険：ガンおよび高圧ホースの接続はエンジンを停止した状態で行ってください。
また、緩んだり、外れたりすることのないよう確実に接続してください。



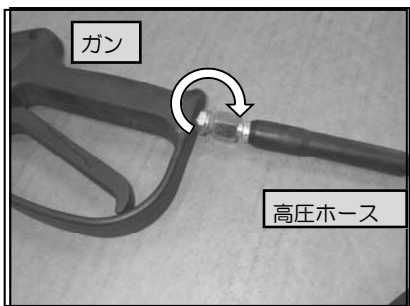
1. エンジンが停止していることを確認してください。
また、水道直結の場合は蛇口が閉まっていることを確認してください。

2. 高圧ホースの接続口を本体の吐出口に差し込み、プラスチックのスクリューを時計方向に止まるまで回します。
注意：スクリューの締めが緩いと高圧水の漏れの原因となります。

参考：ホースの接続スクリューの先端にOリングを使用しています。ホースの抜き差しをスムーズにするため、定期的にOリングにグリスを塗布してください。
グリスが無い状態で無理やり接続すると、Oリングが切れ、水漏れの原因となります。

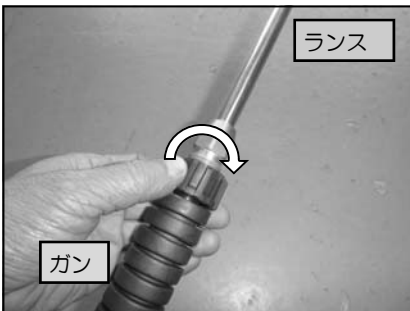


3. 工具を用いて高圧ホースとガンを接続します。ガンを固定した状態で、高圧ホースのメスねじをガンのオスねじに手で締め込み、最後にスパナ（17mm）またはモンキーレンチでメスねじを回し、しっかり固定します。



4. ランスの接続ねじ側をガンの先端に差し込み、ガンのプラスチックスクリューを時計方向に止まるまで回し、確実に接続します。

参考：ガンのプラスチックスクリュー内のOリングに切れや異常な摩耗がないか点検してください。また定期的にOリングにグリスを塗布してください。



5-G ノズルの接続

本機には5種類のノズルが付属しています。使用するノズルは洗浄物や汚れの状況に合わせて選択してください。ただしエンジン始動時には低圧吐出で暖気運転を行うため、エンジン始動時にはまだノズルは接続しないでください。

参考：ノズルの接続は後述「6-B 高圧水の吐出と停止」（13～14頁）を参照してください。



番号	ノズル	用途
⑪	0° ノズル（赤）	直噴ノズルで汚れやこびり付きがひどい場合に適している。
⑫	15° ノズル（黄）	高圧水が扇型に広がる。比較的広い面積を洗浄するのに適している。
⑬	40° ノズル（白）	15° よりもさらに広い面積を洗浄するのに適している。
⑭	洗剤吐出ノズル（黒）	洗剤を散布する場合に使用します。
⑮	ターボノズル	直噴ノズルが回転することで、広範囲を効率よく洗浄できます。

1. 洗浄対象にあったノズルを選択しランスに接続します。ノズルの接続方法は全て同じで、下表の手順で行ってください。

【ノズルの接続方法】

<p>①ランスのカブラのリングを指で押さえて下げます。</p>	<p>②ノズルをカブラに差し込みます。</p>	<p>③指を放すとリングが上がり、ノズルをロックします。ノズルを手で引っ張り抜けないことを確認します。</p>



危険：確実にノズルが接続されて外れないことを確認してください。

ノズルの接続が不完全な場合は、高圧噴射時にノズルが勢いよく外れたり、吹き飛んだり、周りに損傷を与えたり思わぬ事故につながる可能性があります。

参考：ノズルは消耗品です。使用に伴い噴口が摩耗し圧力が低下します。その場合は新しいノズルに交換してください。


【ノズルの取り外し方法】


- ④ ランスのカブラのリングを下げます。
- ⑤ ノズルをカブラから引き抜きます。
- ⑥ ノズルを外したら、リングを放します。

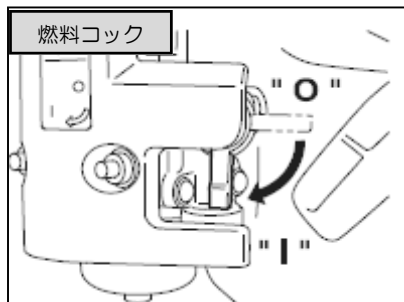
6

運転の開始

6-A エンジンの始動

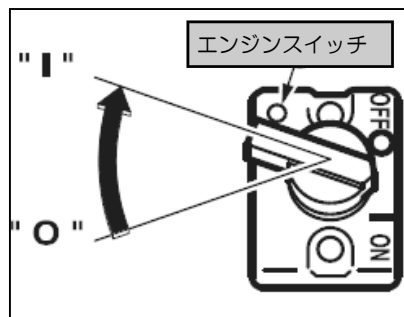
 危険：換気が悪い場所では使用しないでください。エンジンの排気には有毒な一酸化炭素が含まれており、換気が不十分な場合は死に至ることもあります。

 危険：燃えやすいもの（わらくず、紙くずなど）や危険物（油脂類、シンナー、火薬など）の近くでは使用しないでください。

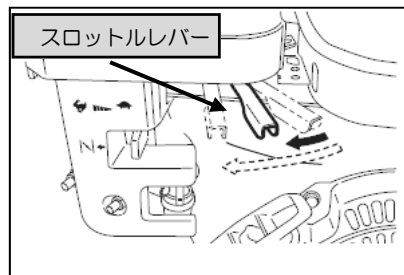


エンジン始動の前に吸水ホース、高圧ホース、ガン、ランスが本機に接続されていることを確認してください。エンジン始動直後は低圧吐出で暖気運転を行うため、ノズルを接続しないでエンジンを始動させます。

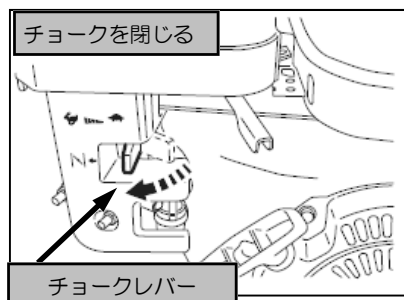
1. 燃料コックを“1”側に倒し、コックを開きます（以後燃料コックを開くと記載）。



2. エンジンスイッチを“1”側に倒し、「ON」にします（以後エンジンスイッチをONすると記載）。



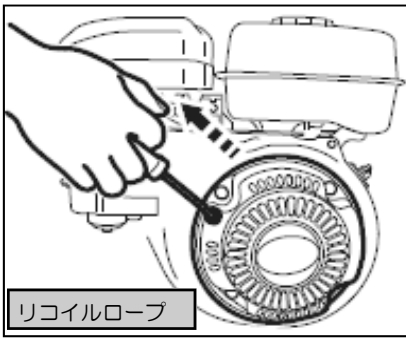
3. スロットルレバーを低速（かめマーク）から高速（うさぎマーク）の方向に約1/3開いた位置にします。



4. チョークレバーを左側にスライドさせ、チョークを閉じます。

参考：チョークの開度

- ・寒い時やエンジンが冷えている時は全閉にしてください。
- ・暖かい時や運転停止直後再始動する場合は全開もしくは半開にしてください。

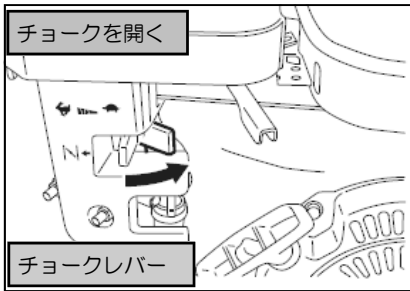


5. リコイルロープのノブを握りロープをゆっくり引いていくと、重くなる所（圧縮点）があります。更に少し引くと一度軽くなる所があり、そこからロープを一旦元に戻します。
6. 機械が動かないように反対側の手で本機のハンドルをしっかり握り、リコイルロープを勢いよく引いてエンジンを始動させます。
ロープはいっぱい引き切らないでください。引いたロープは、その位置から手を放さず静かに元に戻してください。



警告：リコイルロープを引く際には引っ張る方向に人や障害物がないことを確認してください。思わぬけがの原因となります。

参考：一度でエンジンが始動しない場合は、繰り返し始動を試みてください。尚プラグが濡れすぎないように、チョークを徐々に開きながらの始動としてください。



5. エンジンを始動したらチョークレバーを右側にスライドさせチョークを開きます。

参考：

- ・チョークレバーはエンジンの調子を見ながら徐々に開き、最後には必ず全開（右側一杯の位置）にしてください。
- ・寒い時またはエンジンが冷えている時、急にチョークレバーを開くとエンジンが停止することがあります。ご注意ください。

6-B 高圧水の吐出と停止

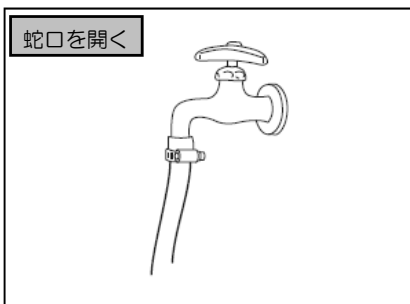


危険：噴射方向に十分注意してください。

人、動物、電気機器、設備などに向けて噴射しないでください。



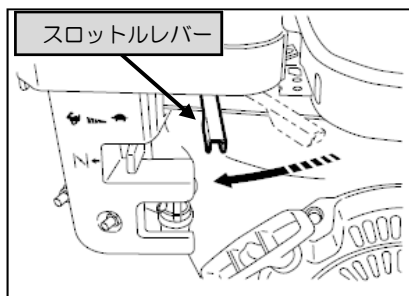
危険：高圧ホースやガンからの水漏れは、本機の故障を拡大させるだけでなく、危険を伴う場合があるので、水漏れや異常を感じた場合は直ちに本機の使用を中止してください。



【高圧水の吐出】

1. エンジンを始動させたら、直ちに水道の蛇口を開き、本機に給水します。
溜め水容器からの自吸の場合はサクシヨンストレーナを容器に入れます。

注意：1分以上の水無し運転（空運転）はしないでください。
ポンプ故障の原因となります。



2. エンジンスロットルレバーを高速（うさぎマーク）側に止まるまでスライドさせ、エンジンの回転を最大にします。

3. ガンのトリガを握り吐出を始めます。
エンジンを暖めるため、5分ほど低圧の状態ですべて吐出を続けます。

参考：暖気運転を行わないですぐ高圧吐出を行うと、エンジンの潤滑不足をきたし、故障の原因となったり、エンジンの寿命を縮める原因となります。



4. 暖気運転が終わったら吐出を停止し、ノズルを接続します（11頁「5-Gノズルの接続」参照）。ノズルの接続はガンのセーフティーロックを掛けて、トリガが握れない状態で行ってください。これで高圧吐出の準備ができました。



危険：確実にノズルが接続されて外れないことを確認してください。ノズルの接続が不完全な場合は、高圧噴射時にノズルが勢いよく外れたり、吹き飛んだり、周りに損傷を与えたり思わぬ事故につながります。

5. ガンのトリガを握り、高圧吐出を始めてください。

【吐出の停止】

6. ガンのトリガを放すと高圧水の吐出は停止します。

この時ポンプは同じ水をポンプ内部で循環させるアイドリング運転を行っています。

注意：無用なアイドリング運転を行わないでください。ポンプが過熱して故障の原因となります。

参考：アイドリング運転を2分ぐらい続けるとポンプ内の水が高温（約60℃）になり、ポンプを保護するためサーモバルブから熱水が放出されます。熱水に注意してください。

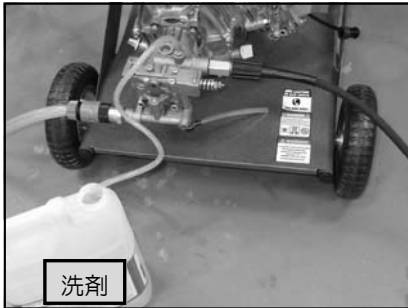
7. 再度ガンのトリガを引くと吐出を再開します。

8. 運転中は以下の点に注意してください。

- 異常な振動や異音が無いかな？
- エンジンの回転にムラが無いかな？
- エンジンの排気色に異常が無いかな？（白、黒色などの濃い色の排気色が連続していないかな？）
- 高圧ホース、ガンなどの接続部位の水漏れは無いかな？

異常が確認された場合は直ちに使用を中止し、本機が冷えていることを確認して点検を行ってください。

6-C 洗剤の散布

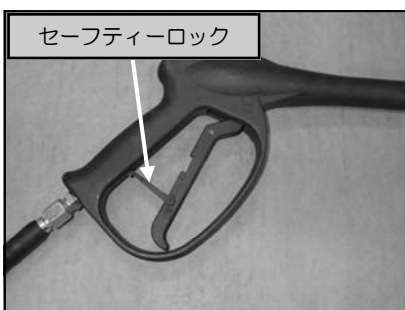


本機は洗剤を吸い上げ、約15倍に希釈して低圧で散布する機能があります。14頁「6-B 高圧水の吐出と停止」3の後、以下の手順で作業をしてください。

1. 洗剤容器の中に、洗剤吸引用ホースを入れます。
2. 洗剤吐出ノズル（黒）をランスに接続します。
3. ガンのトリガを握り吐出させると、数秒後に希釈された洗剤が吐出されます。
4. 洗剤散布を終了する場合は、洗剤吸引用ホースで1Lほどの水道水を吸い上げ、洗剤経路のすすぎを行ってください。

注意：すすぎを行わないと薬材が内部で固着して、次回使用時に洗剤を吸い上げない場合があります。

6-D 作業の中断



警告：作業を中断したり本機から離れる場合は、必ずエンジンを停止し、さらにガンのトリガを一旦握り、内部の圧力を抜いてください。

5分以上作業を中断する場合は以下の手順でエンジンを停止させてください。

1. ガンのトリガを放し高圧水の吐出を止めます。
2. エンジンのスロットルを低速（かめマーク）側に戻し、2～3分間ほどアイドリング運転を行いエンジンを冷却させます。
3. エンジンスイッチを“0”（OFF）にしてエンジンを停止させます。

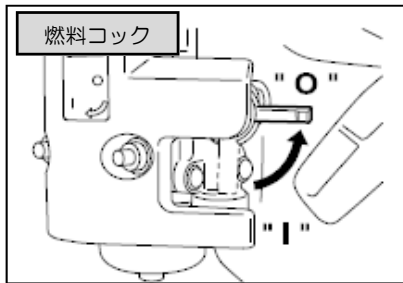
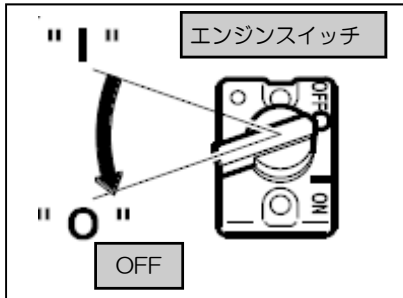
注意：アイドリング運転を行わないで高圧吐出状態からエンジンを停止させると、マフラー内の未燃ガスが燃焼し爆音を発する場合があります。

4. ガンのトリガを握りホース内の残圧を抜きます。
5. ガンのセーフティーロックを起こし、トリガを引けない状態にします。

7

運転の終了と保管

7-A 運転の終了



1. 3分間ほどアイドリング運転を行い（15頁「6-D作業の中断」参照）、エンジンを冷却させます。
2. 水道直結の場合は水道の蛇口を閉じて本機への給水を停止します。自吸で使用された場合は溜め水容器からサクションストレーナを出します。
3. ガンのトリガを握り水が出なくなるまで吐出させます。
4. 吸水ホースを本機から外し、再度ガンのトリガを引き、本機と高圧ホースに残った水を吐出させます。
5. エンジンスイッチを“O”（OFF）側に倒し、エンジンを停止させます。燃料コックを“O”側に倒しコックを閉じます（以後燃料コックを閉じると記載）。

注意：3～5の作業は1分以内で行ってください。ポンプの故障の原因となります。

6. 再度ガンのトリガを握り、ポンプおよび高圧ホース内の残圧を抜きます。

注意：高圧ホース内に残圧があると接続のスクリューは硬くて回りません。無理やり回すと不意に高圧水が噴き出し危険です。

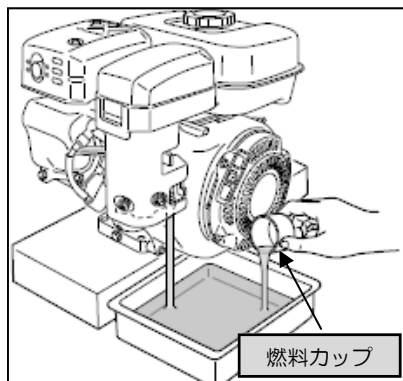
7. 本機から高圧ホースを外します。接続口に異物が入らない様に注意してください。異物が入るとノズル詰まりの原因となります。
8. 本機やホース、ガン、ランス&ノズルに付着した水滴や汚れは、乾いた布で綺麗に拭き取ってください。

7-B 保管

本機を保管する際は、以下の点に注意してください。

- 直射日光が当たらない乾燥した場所に保管してください。
- いたずら防止のため、第三者が触れない場所を選んでください。
- 凍結による故障を防ぐため、氷点下になる場所での保管は避けてください。万が一、氷点下になる場所に保管せざるをえない場合は23頁「9-B 不凍処理」を参照のうえ、不凍液処理を施してください。

7-C 長期保管の方法



1か月以上エンジンを使用しない場合は燃料の変質による始動不良または運転不調にならないように、次の手順で燃料を抜いてください。

1. 燃料を抜く

燃料カップの下側に燃料の受け皿等を用意し、12mmのスパナを用いて燃料カップを外し、内部の燃料を排出します。



危険：火傷や火災事故を防止するために

●身体に付帯した静電気を除去してから作業を行ってください。静電気の放電による火花により気化した燃料（ガソリン）に引火し、火傷を負うおそれがあります。

●火災のおそれがありますので、燃料（ガソリン）は「消防法に適合した」金属製の携帯タンクに保管・携行してください。

2. 燃料カップを取り付ける

1で外した燃料カップを取り付けます。

3. 注油する

- エンジンオイルは新しいオイルと交換してください。
- 点火プラグを外しエンジンオイルを約5mL注入し、リコイルロープのノブを静かに2～3回引き、点火プラグを締め付けてください。

4. 清掃して保管する

- リコイルロープのノブをゆっくり引き、重くなった所（圧縮点）で止めておきます。
- 各部を油布またはウエスで清掃し、カバーを掛けて湿気、ホコリの少ないところで保管してください。

8

日常の点検・お手入れ

本機を末永くご愛用いただくために、毎使用前に以下の点検を行ってください。

⚠ 警告：点検やお手入れを行う場合は、必ずエンジンを止めた状態で行ってください。

8-A 外観点検

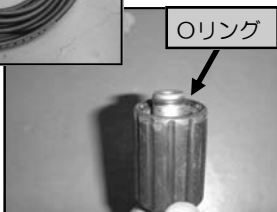


本機全体を目視し、カバーやフレーム、ホイールなどに、亀裂や変形、損傷、各ネジ部にゆるみがないか点検してください。

また、異物や汚れが付着している場合は、濡れたタオルなどで綺麗にしてください。特にエンジンは空冷式ですので、ホコリなどが付着していると冷却不足を起こします。

吸水ホース接続口や吐出口は汚れないようにしてください。

8-B ホース類の点検



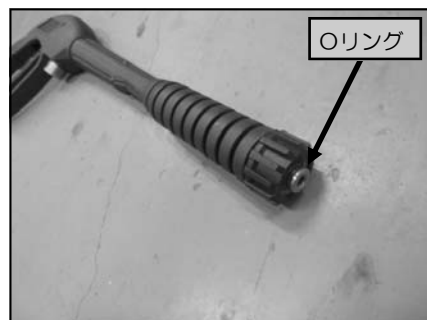
付属のホースに亀裂や変形、破損がないことを目視にて点検してください。

亀裂や変形、破損など異常がある場合は、破裂などの危険があるので、使用せず新しいホースに交換してください。

ホース接続スクリューの先端のOリングに切れや異常な摩耗がないか点検してください。切れている場合はスペアのOリングに交換してください。

また定期的にOリングにグリスを塗布してください。

8-C ガンやランス&ノズルの点検

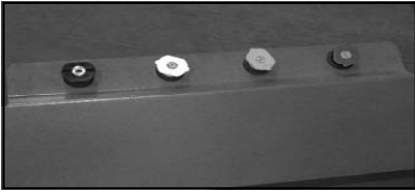


ガンやランス&ノズルの外観を目視し、亀裂や変形、損傷がないか点検してください。亀裂や変形、破損などの異常がある場合は、使用せず新しいものに交換してください。

ランスの接続部位のOリングに切れや異常な摩耗がないか点検してください。切れている場合はスペアのOリングに交換してください。

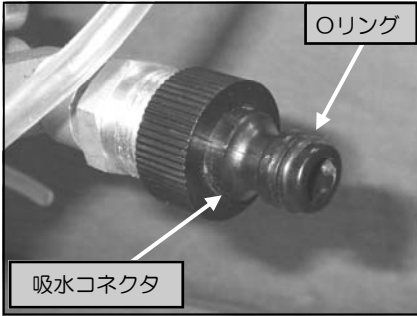
また月1回の割合でOリングにグリスを塗布してください。

8-D ノズルの点検

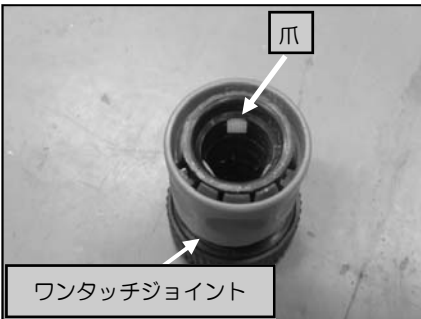


ノズルに異物が詰まっていないか点検してください。
詰まっている場合は、ノズルクリーナピンで詰まりを除去して、ノズルの内側を流水で洗ってください。

8-E 吸水ホースの接続点検

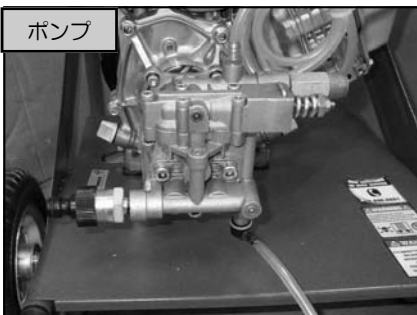


1. 本機の吸水コネクタの破損や亀裂がないか、Oリングが切れていないか、異常な摩耗がないか確認してください。月1回の割合でOリングにグリスを塗布してください。



2. 吸水ホースのワンタッチジョイントの内側にある引っかけ爪が 磨耗していないか、破損していないか確認してください。異常がある場合は新品に交換してください。

8-F ポンプの点検



本機のポンプには潤滑のためオイルを使用しております。オイルが不足すると大きな故障に至る場合がありますので、毎使用前に必ずオイル漏れがないか確認してください。
漏れが確認された場合は使用せず。お買い上げの販売店に相談してください。

8-G エンジンの点検及びお手入れ

本機搭載のエンジンの点検、保守は下表の通りです。
このメンテナンスサイクルについては一般的な用途での数値ですので、悪条件下で使用される場合はメンテナンス頻度を高めてください。

項目		使用頻度			
		毎使用時	毎20時間	毎50時間	毎100時間
エンジンオイル	点検、補給	●			
	交換		●（初回）		●
エアクリーナ	点検、清掃	●（点検）		●	
	交換				
点火プラグ	清掃、調整				●
	交換				
燃料フィルタ	清掃				●

I. オイル交換



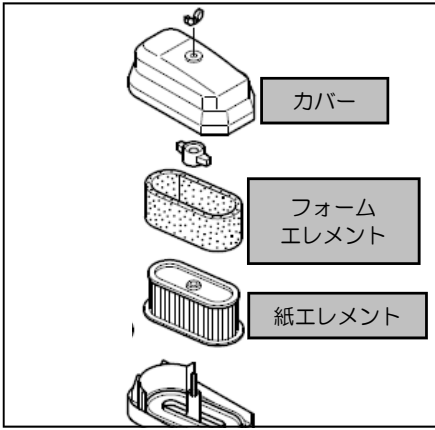
1. オイル受けをエンジンの下に入れ、ドレンプラグを外します。
2. オイルの排出が終わったら、ドレンプラグをしっかり締め付けてください。

注意：ドレンプラグの締め付けが緩いと使用中に外れて、オイルが漏れ大きな故障の要因となります。



3. オイルゲージを外し、給油口から新しいオイルを入れます。
4. オイルゲージで適量かどうか確認します。
5. 最後にオイルゲージを給油口にしっかりと締め込みます。（8頁「5-C エンジンオイルの点検と補給」をご参照ください。）

II. エアクリーナ

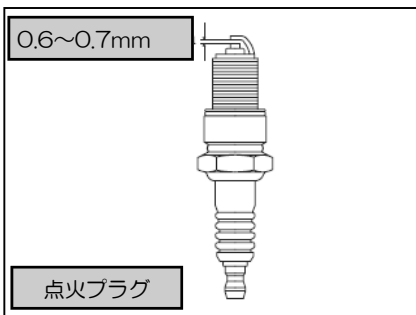
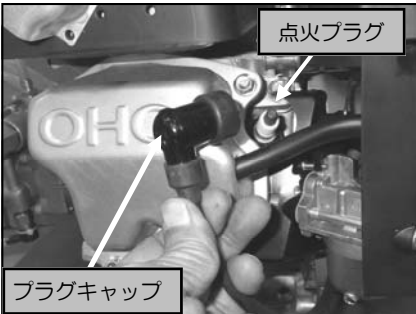


エアクリーナエレメントの汚れがひどくなると、エンジンの始動不良、出力不足、運転に不調をきたすばかりでなく、エンジンの寿命を極端に短くします。いつもきれいなエアクリーナにしておくように心掛けてください。

1. エアクリーナのカバーのスクリューを緩め、カバーを外します。
2. フォームエレメントを取り外し、洗油（白灯油）で洗浄後、エンジンオイルに浸し、硬く絞ってから取り付けます。

参考：フォームエレメントが詰まるとエンジンの吸入空気量が減り、所定の性能が発揮できなくなります。

III. 点火プラグ

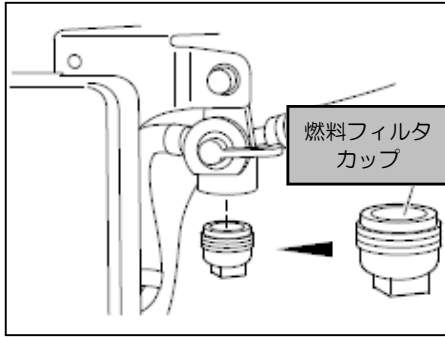


1. プラグキャップを外します。
2. 付属のプラグレンチを用いて点火プラグを外します。
3. プラグクリーナ又は、ワイヤーブラシなどで電極回りを清掃します。
4. プラグのギャップは0.6~0.7mmが基準値です。
5. 新品に交換する場合は以下の点火プラグをお買い求めください。

推奨点火プラグ

E6RC (TORCH) またはBR-6HS (NGK)

IV. 燃料カップの清掃



燃料フィルタカップ内に水やごみが溜まります。定期的
にカップを取り外して点検、清掃を行ってください。



危険： 火傷や火災事故を防止するために

身体に帯電した静電気を除去してから作業を始めて
ください。静電気の放電による火花により気化した
燃料（ガソリン）に引火し、火傷を負うおそれがあ
ります。

1. 燃料コックを閉じます。
2. 10mmのスパナを用いて燃料カップを取り外し、
カップ内に水やゴミが溜まっていないか確認します。
3. カップ内の水やゴミを捨て、洗油（白灯油）で洗い、
本体に完全に締め付けます。

9

寒冷地での使用・不凍処理について

9-A やむを得ず氷点下で作業をする場合

1. 前回使用後に不凍液処理を施していない場合、使用前に必ず暖房設備のある暖かい室内に置いて、本体、高圧ホース、吸水ホース、ガンおよびランスなどを十分に暖めてください。この時、高圧ホースにひび割れや水漏れがないかを確認してください。
2. 高圧ホースが弾性を取り戻し、各部の凍結が完全になくなってから、次項「9-B 不凍処理」の項を参照し不凍液処理を施し、本機を作業現場に搬出してください。
注意：不凍液処理を施さず氷点下の作業現場に搬出すると凍結し、故障の原因となります。
3. 作業中は吐出作業を中断しないよう、連続吐出を行ってください。
注意：ホースを含む本機の水経路内が凍結したまま運転しますと、故障の原因となりますので十分注意してください。

9-B 不凍処理

凍結の恐れがある場所に本機を保管する場合は、必ず以下の手順で不凍処理を行ってください。

注意：本機およびホースなどに残った水が凍結すると、これらを故障させることがあります。

1. 5L程度の希釈した不凍液をバケツなどの容器に準備してください。
(不凍液の取扱いはお使いになる不凍液の取扱説明書に従ってください。)
注意：不凍液を入れる容器は事前によく洗浄し、砂塵や異物が混ざらないようにしてください。砂塵や異物が混ざると本機に吸い込まれ、故障の原因となります。
2. 不凍液の容器にサクシヨンストレーナを入れ、本機側には高圧ホース、ガンを接続します。
3. エンジンを始動させ、ガンを不凍液の容器に向けトリガを握ります。
4. 不凍液が入った容器に吐出させ、不凍液を容器、本機間で循環させます。ガンのトリガのON/OFFを繰り返し、約1～2分間不凍液を循環させたら完了です。
注意：不凍液が飛び散ることがあるので注意してください。
5. 不凍液の容器からサクシヨンストレーナを引き上げ、ガンのトリガを握り不凍液の吐出が止まったらエンジンを止めてください。
6. 「7 運転の終了と保管」(16頁)を参照のうえ、本機を正しく保管してください。

10

故障かなと思ったら

本機に異常が見られた時は、次の点をお調べください。
それでも異常がある場合にはお買い上げの販売店に、ご相談ください。

症 状	原 因	処 理
水の圧力が低い。 (水の勢いが無い。) (水が息継ぎしたような出方をする)	水量が不足している。	水道の蛇口を全開にしてください。 十分な水量を確保できる蛇口を使用してください。
	吸水ホースが折れて本体へ水が供給されていない。	吸水ホースが折れないように真直ぐ設置してください。
	吸水ホース内に空気を噛み込んでいる。	吸水ホース内の空気を排出してください。
	水漏れしている。	水漏れ位置を確認して処置してください。
	ノズルが摩耗している。	ノズルを交換してください。
	異物がポンプ内部へ入った。	使用を中止し、販売店へご相談ください。
	自吸式の場合 サクシヨンストレーナが水に浸かっている。 (吸水すれば水槽の水は低下するので、使用前はストレーナが水没していても、使用中に水位が低下してストレーナが水へ浸かっている状態になることがある)	サクシヨンストレーナを完全に水没させてください。
自吸式の場合 サクシヨンストレーナが目詰まりしている。	サクシヨンストレーナを清掃してください。	
蛇口-吸水ホース接続部から水漏れする。	ホースバンドが変形している。 吸水ホースに傷が付いている。	ホースバンドを交換してください。 吸水ホースを交換してください。
吸水ホース-ワンタッチジョイント接続部から水漏れする。	ワンタッチジョイントが破損している。	ワンタッチジョイントを交換してください。
	吸水ホースに傷が付いている。	吸水ホースを交換してください。
ワンタッチジョイント-吸水コネクタ接続部から水漏れする。	ワンタッチジョイントが破損している。	ワンタッチジョイントを交換してください。
	吸水コネクタが破損、またはネジ山が傷んでいる。	吸水コネクタを交換してください。
	吸水コネクタのOリングが劣化している。	Oリングを交換してください。

症 状	原 因	処 理
吸水コネクタ本体接続部から水漏れする。 (本体底から水漏れしているように見える場合があります。)	吸水コネクタが破損、またはネジ山が傷んでいる。	吸水コネクタを交換してください。
	吸水コネクタ内のパッキンがない。	パッキンを取付けてください。
	吸水コネクタが締まっていない、または斜めに締めこまれている。	吸水コネクタを正しく締めてください。
本体内部から水漏れする。	ポンプの焼損、凍結	使用を中止し、販売店へご相談ください。
高圧ホースから水漏れする。	高圧ホースの変形、破裂	高圧ホースを交換してください。
本体－高圧ホース接続部から水漏れする。	Oリングの切れ、劣化	Oリングを交換してください。
ガン－ノズル接続部から水漏れする。	Oリングの切れ、劣化	Oリングを交換してください。
	ノズルの破損	ノズルを交換してください
ガンのレバーが引けない。	ガンのセーフティーロックが掛かっている。	ガンのセーフティーロックを解除してください。
自吸できない (水を吸い上げない)	サクシヨンストレーナが水に浸かっている。(吸水すれば溜め水容器の水位は低下するので、使用前はサクシヨンストレーナが水没していても、使用中に水位が低下してサクシヨンストレーナが水へ浸かっている状態になることがある)	サクシヨンストレーナを完全に水没させてください。
	自吸吸い上げ高さが50cm以上ある。(吸水すれば水槽の水位は低下するので、使用前に50cm以内の高さが使用中に水位が低下して50cm以上の高さになることがあります。)	溜め水容器へ水を追加するなどして、水の吸い上げ高さが50cm以内になるようにしてください。
	サクシヨンストレーナが目詰まりしている。	サクシヨンストレーナを清掃してください。
洗剤が吐出されない	洗剤が空になっている	洗剤を補充する
	洗剤用ノズルが付いていない	洗剤吐出ノズルを取り付ける
	洗剤が詰まっている	洗剤経路内を清掃、もしくは交換する。
エンジンがかからない	エアクリーナが詰まっている	清掃する
	チョークを閉じていない	チョークを閉じる
	ガン、ホースに内圧が掛かっている	ガンのトリガを握り、内圧を抜く
異臭がする。		使用を中止し、販売店へご相談ください。

-NOTE-

-NOTE-

保証規定

本製品には購入日より1年間の製品品質保証が適用されます。

お客様の正常なご使用状態で、万一故障した場合は下記規定に基づき、修理または交換いたします。保証サービスを受ける際は、お買い上げの販売店に製品と共に保証書を添えてお申し付けください。修理品の運賃、諸掛かりの費用はお客様にてご負担願います。



本保証書は再発行いたしませんので大切に保管してください。
本保証書は日本国内においてのみ有効です。

- 保証内容は機械本体の修理に限ります。
- 保証書の有効期限は保証書表面のご購入日から1年間とします。
- 保証期間を問わず以下の場合には保証は適用されません。
 1. 理由を問わず保証書のご提示がない場合。
 2. 本保証書の所定事項の未記入、販売店名の記入または販売店を証する物（レシートなど）の添付がない場合、あるいは字句が不正に訂正されている場合。
 3. お買い上げ後の落下、引越し、輸送などによる故障または破損した場合。
 4. 取扱説明書の指示に反する使用、仕様の限界を超える使用により故障または損傷した場合。（業務で使用した場合、規定以上の長さの延長コードを使用した場合の電圧降下、許容水温（40℃以下）を超える温水を使用した場合など）
 5. 使用上の誤り、保守、点検の不備や不注意により故障または損傷した場合。
 6. 火災、天災、異常電圧などにより故障または損傷した場合。
 7. 気温の低下に伴う不具合。（凍結させた場合の損傷、高圧ホースのパンクなど）
 8. 薬品、塩害などに起因する不具合。
 9. お買い上げ店以外での修理、調整および改造による故障または損傷が生じた場合。
 10. 消耗品の場合。（パッキン、Oリング、バルブ、チューブ、水道ホース、高圧ホース、油脂類およびこれらに類する消耗品）
 11. 使用頻度を問わず、保証書の有効期限が過ぎた場合。
 12. 経年変化により発生した不具合。（塗装、メッキ、などの自然退色、高圧ホースのひび割れなど）
 13. 外観など、使用に際し品質、機能に関連しない部分に損傷がある場合。（音、振動、1分当たり数滴の水漏れ、オイルのにじみなど）
 14. 本機を使用して生じた破損などの修復費およびそれに付随する費用など。
 15. 水道水以外の水の使用や吸水ホース内の異物によりポンプが故障した場合。

保証書

本保証書は、保証規定に基づき本製品お買い上げの日より1年間、無償修理の責任を負うことを保証するものです。

モデル名		製造番号	
お客様	お名前		
	ご住所 〒		
		電話	()
お買い上げ日 平成 年 月 日		保証期間 (お買い上げ日より) 1年	
販売店	取扱販売店名・住所・電話番号		
			印

- この保証書は本書に明示した期間、条件のもとにおいて無料修理をお約束するものです。従ってこの保証書によってお客様の法律上の権利を制限するものではありませんので、保証期間経過後の修理などについてご不明の場合は、お買い上げの販売店にお問い合わせください。

RYOBI

発売元

リョービ販売株式会社

本社 〒468-8512 愛知県名古屋市長久区久方1-145-1
Tel. (052) 806-5111 Fax. (052) 806-5141
<http://www.ryobi-group.co.jp/r-sales/>

レシート貼付

部品ご入用、故障の場合、その他取扱い上ご不明な点があった場合には、
ご遠慮なくお買い上げの販売店にお問い合わせください。

※改良のためお断りなく仕様、外観などを変更することがあります。

RYOBI

発売元

リョービ販売株式会社

本社 〒468-8512

名古屋市天白区久方1-145-1

TEL.(052)806-5111 FAX.(052)806-5141

<http://www.ryobi-group.co.jp/r-sales/>